

第 3 回 STAMP ワークショップ発表概要

タイトル

ソフトウェアメンテナンスプロジェクトチームの心理的安全確保に向けた CAST 適用の事例

著者・発表者

長崎県立大学 日下部茂、SCSK 株式会社 三輪 東

University of Nagasaki Kusakabe, Shigeru, SCSK Corporation Miwa, Azuma

概要

Google のプロジェクト・アリストテレスやモダンアジャイルの Anzenengineering のように、ソフトウェア開発のプロジェクトやプロセスでは心理的安全が重要とされている。本発表では、ソフトウェアメンテナンスプロジェクトチームの心理的安全確保に向けた CAST 適用の事例を紹介する。紹介する事例では、発注者と受注者に加え、受注者に協力会社が存在する。紹介する事例のドメインでは、多重並行的に複数のメンテナンスプロジェクトが実行されることが多く、一時受注者が協力会社に仕事を依頼する際には、影響調査を入念に行ったうえで、該当メンテナンスプロジェクトで追加修正の対象とする部分を明確化する。今回紹介する事例では、そのように明確に指定した範囲外の、想定されていない修正が行われ、しかもその修正部分が検証されずに協力会社から成果物が納品される事態が発生した。このような事態を受けて行われた最初の調査では、一時受注者側の単純なスキルや知識不足に起因したものだという結論が報告された。その結果、一時受注者から協力会社への信頼関係は崩れ、プロジェクト組織内での心理的安全は損なわれてしまった。プロジェクトリーダはそのような調査結果に疑問を持ち、システム理論に基づく STAMP でモデル化を行い CAST の分析を行った。CAST 分析により、一時受注者側も含めた関係者の不適切な想定に起因して、本来は機能するはずのチェック機構が機能していなかったことが判明し、一時受注者と協力会社との間の信頼関係を回復させることが出来た。

キーワード

- (1) プロセス改善
- (2) システム理論
- (3) 事故モデル
- (4) 暗黙知
- (5) 合意形成